

# アレン・ネルソンさんの納骨式より

名古屋別院フオーラム人権連続講座

## 佐野明弘さん述(07.7.7)

しかし、家族にとつては、特に娘さんのロビンさんにとつては、とても受けとめがたい、非常に辛いことだと、そのことが不欄だということを言っていました。だから、自分では分っているけれども、自分が死んでいかねばならず、苦しいにも関わらず、周囲の人を安心させようと、わざわざ二元気になりますから、こう言っていたのだな、ということがそのとき初めて分かりました。

そして、二〇〇九年三月二十五日、午前十時十九分に亡くなりました。時間差がありますので、日本では、二十六日の午前十一時ごろになりますかね。そして、連絡が入ってきたわけです。色々なものをキャンセルしなければいけないのですが、それらをキャンセルしたりするのに時間がかかり一日遅れてしまつて、二十七日に日本を発ち、アメリカへ行きまして、準備をして三十一日に葬儀をしました。

今ニューヨークでは、ほとんど皆火葬なのだそうで、その火葬したお骨を置いて、ホールで葬式をしました。彼はキリスト友会(クエーカー)で、最初にクエーカーの人たちが一人ひとり自分の思いを静かに述べました。何の儀式もないのですね。そして、そこから真宗の葬儀をさせてもらったのです。

『多発性骨髄腫』は、おそらく枯葉剤の影響だといふことが言われています。ベトナム帰還兵の海兵隊は枯葉剤でジャングルが枯葉になったところを進むわけです。だから、触れる、あるいは、吸い込むわけです。そういうことで、今彼と同じ病院に五人も同じような人がいる」とお医者さんが言っていたようでした。政府の方でも因果関係については難しいので、今のところ保障がないわけですね。

彼が初めて石川県の私の町に来たときに、私の拙い英語で仏教やキリスト教について、一時間半も露天風呂

に浸かったまま話し合いをしたのです。

最初に聞かれたのが、「ブッダは生まれてすぐ七歩歩いたというけれど、あれは本当だと思うか？事実のことなのか？」と聞くのです。彼は「処女マリアから生まれたのがイエスだ」という話を信じていないのです。

奇跡ということによって信仰をするというのは、キリスト教の多くがそうですね。要するに、信仰の有様としては信じがたいもの、理解しがたいものを、信仰によつて突破しようとする。非常に不合理なものを突破するときに信仰によつて突破しようとする。

仏教はそうではないのです。むしろ、そういうようなものをひっくり返してくる。そういう思い込んだような信心というものを打ち崩してくる。目覚めさせる。それは一方では、迷いに目覚めさせる。一方では如来のはたらきに目覚めさせる。一つのことですけれどね。

ですから、私も七歩歩いたことは事実だとは思つていません、そのことを彼に言つたら、そこで彼は大喜びして、そこから色々なことを聞いてきて話し合うようになりました。それから、会うごとに、そういうことについて話し合いをしました。

一度、こんなこともありました。今沖縄の辺野古に米軍の基地が作られようとしているのですけれども、ジュゴンが世界で五十頭ぐらいいしかないのですが、そのジュゴンの生息地です。非常に綺麗なサンゴ礁の海です。

そこが米軍の基地、ヘリポートができる。それに反対して、ずっと沖縄の人たちが、漁師たちの船で海上に出て、抗議行動をしているわけです。アレンさんもそれに参加して、抗議行動をしていました。

ところが、海上保安庁の大きな船が、皆の乗っている小さな舟の前で、スピードを出してギョツと曲がる

わけです。そうするとすぐ高い波が襲つてきて、お年よりも皆乗っているわけです。その人たちは命がけなのです。それを繰り返されたので、アレンさんは非常に怒りの心が起つてきて、「あいつらを殺したい」と、そう思ったというのです。

夜、二人になったときに、「ずっと聞きたかったことがあるのだ」と言いました。何か神妙に言うから、何を言うのかなと思つたら、今言つたことを彼が伝えてきて、「こんな私はどうしたらいいのだ。人には非暴力を説いて、そして、自分自身もたくさんの人を殺して、そのことに死ぬほど苦しんできた。にもかかわらず、まだ私の中から暴力が消えていかない。どうしたらいいのだろうか？」と云うのです。

これには困りました。私自身が浅い経験しかない。彼の深い問いに答える言葉がない。二十分ぐらい黙っていました。しかし、彼はずっと待っているのですね。そして、最後に二日言つたのは、「そうやって苦しんでいるあなたを信頼しているのです。あなたがそうやって苦しんでいる、そのことを信頼しています」、「こういうふうに言つたら、「自分の求めているような答えとは全く違うけれども、大切なことを聞いたように思いますが」といふようなことをおっしゃっていました。そういうような話し合いを続けてきて、彼は「仏教徒になりたい」と言うようになってきました。何かそういうことで仏教に心を寄せるようになっていったようですね。

そして、人生の最期には法名「釈阿蓮」、お釈迦様の弟子となつて終えていかれました。「遺骨は彼の遺言によつて光岡坊に埋められることになっています。彼の人生と言葉から私たちは今も多くのことを問いかけていますように思います。

(〇九年四月三日人生講座 講題「本願に帰す」より)